

韓国環境部プレスリリース 2020年2月19日付

京畿道の野生いのししから ASF ウイルス検出（野生いのしし 229 例目）

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1322580&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は2月18日京畿道（キョンギド）漣川郡（ヨンチョンゲン）旺澄面（ワンジンミョン）の民間制限線内で発見された野生いのしし死体1個体でASFウイルスが検出されたと2月19日明らかにした。

国立環境科学院は2月19日死体1個体でASFウイルスを確診と結果を関係機関に通知した。これで漣川郡（ヨンチョンゲン）では2019年10月3日に初めて野生いのししからASFウイルスを検出してから現在までで合計68件の野生いのししASF陽性事例となり、全国的には229件になった。

野生いのししASF標準の行動指針により試料採取後現場消毒と共に野生いのししの死体を処理した。

国立環境科学院は、「今回陽性となった死体は、環境部捜索チームが2次フェンス内で発見した。この地域では感染死体がさらに出てくる可能性が高く、徹底的に捜索している」と明らかにした。

以上